

第2期舞鶴市まち・ひと・しごと創生総合戦略（概要版）

（計画期間：令和2年4月～令和9年3月）

基本目標① 将来に夢と希望の持てる活力あるまちをつくる

本市最大の地域資源である海・港を生かした産業はもとより、地域で築いてきた商工業の基盤、全国に誇れる農林水産物や観光関連サービスなどの産業の高付加価値化、更なるブランド力の向上を目指し、地域経済の安定、活性化を図ります。

地域の富を増やし、「舞鶴でやりたい仕事を見つけ、住み続けたい」「一旦外に出て戻り、舞鶴で働きたい」希望をかなえるまちづくりを進めます。



【数値目標】

○交流人口	253万人（H30）	→	381万人（R8）
○交流人口地域消費額	約146億円（H30）	→	約259億円（R8）
○生産年齢人口（15～64歳）の就業率	72.4%（H27国調）	→	73.0%（R7国調）

(1) 海・港を生かした魅力あふれるまち

- ① 関西経済圏の日本海側の玄関口・京都舞鶴港を生かした産業の振興
（年間取扱貨物量 10,824千t → 11,933千t）
（年間コンテナ取扱量 18,623TEU → 32,315TEU）
（京都舞鶴港の旅客利用者数 130,000人 → 171,000人）
- ② 魅力を引き出す観光まちづくりの推進
（観光入込客数 229万人 → 340万人）
（一人あたりの観光消費額 1,700円 → 2,500円）
（赤れんがパーク来場者数 74万人 → 100万人）
（田辺城資料館入館者数 13,111人 → 16,200人）
（遊覧船乗客数 10,404人 → 60,000人）
（インバウンド宿泊数（海の京都DMO管内） 66,000人 → 250,000人）

(2) 地域産業が元気で、いきいきと働けるまち

- ① 元気な事業者の育成による商工業の振興
（経営基盤強化等各種セミナー回数 13回 → 25回）
（「京都市用地バンク」への産業用地情報掲載件数 3件 → 10件）
（企業の新規立地・増設の件数 3件 → 12件）
- ② 付加価値の高い農林水産物の振興
（万願寺甘とうの年間生産量 197t（R5） → 220t）
（丹後とり貝の出荷金額 6,998万円 → 14,000万円）
（新規漁業就業者数（累計） 12人 → 64人）
- ③ 雇用の確保・安定と働きやすい環境づくり
（舞鶴市就業支援センター利用者の就職率 7.0% → 7.5%）
（市内3高校の新卒就職者の市内就職率 41.8% → 64.0%）

(3) 次世代に向けた社会基盤整備

- ① 更なる交流促進に向けた交通基盤整備
（山陰新幹線京都府北部ルート誘致活動）
（舞鶴若狭自動車道の4車線化や山陰近畿自動車道の早期完成に向けた要望活動）
（西舞鶴道路の早期完成に向けた用地買収及び工事の促進、青葉トンネルの早期事業化に向けた要望活動）
（白鳥トンネル関連工事等の促進）



基本目標② このまちに魅かれ、移り住みたくなるまちをつくる

舞鶴に住んでいる人にとって暮らしやすく、住み続けたいと思うまち、また、個人や企業がこのまちの多様な魅力に魅かれ、このまちに移り住みたくなるまち、離れていてもこの地域のために力になってほしいと思えるきっかけづくりを市民と行政が力を合わせて築き上げます。



【数値目標】

○定住人口の減少抑制	79,886人（R1）	→	73,200人（R8）
○移住世帯数	13世帯（H30）	→	18世帯（R8）

(1) 移り住みたくなるまち

- ① 「移住者にやさしいまち・舞鶴」宣言
（移住相談受付件数 42件 → 120件）
- ② まちなか・農山漁村への移住促進と活性化
（農山漁村年間移住者数 8世帯 → 16世帯）
（まちなかへの移住者数（累計） 9世帯 → 39世帯）

(2) 住み続けたいと思うまち

- ① 「舞鶴（ふるさと）」を学ぶ機会の創出
（身近な地域資源を学ぶ体験講座数 21回 → 30回）

(3) 舞鶴ゆかりの人材や若者から応援されるまち

- ① 関係人口の創出・拡大
（ふるさと納税寄付者数（累計） 個人版 619人 → 50,000人
企業版 0団体 → 9団体）
（Coworkation Village Maizuruにおけるセミナー、ワークショップ等の開催数 0回 → 50回）
- ② 戦略的な広報の推進
（まちの魅力を協働で発信する市民などの人数 0人 → 70人）

基本目標③ 結婚・出産・子育ての希望がかなう、子育てにやさしいまちをつくる

妊娠、出産、子育てなど、安心して子どもを産み育てることができると同時に、子どもの豊かな育ちと成長が実現できるまちづくりを進めます。
また、0歳から15歳までの切れ目のない質の高い教育環境の充実や、子どもの健やかな成長を社会全体で支える環境づくりなど、学校や家庭、地域が相互に連携することで「子育てしやすいまち」の実現に向けた取組を進めます。



【数値目標】

○定住人口の減少抑制	79,886人（R1）	→	73,200人（R8）
○子育てしやすいまち満足度	57.5%（H29）	→	75.0%（R8）
○子どもの授業の満足度	77.5%（H30）	→	83.5%（R8）

(1) 子育て・教育環境の充実

- ① 子どもの豊かな育ちを支える環境づくり
（子育て交流施設あそびあむ父親利用者数 7,139人 → 7,900人）
（待機児童数 0人）
- ② 親と子が安心して健やかに過ごすことのできる環境づくり
（子育て支援の充実）
（児童虐待の防止活動）
- ③ 夢に向かって将来を切り拓く子どもを育成するための環境づくり
（子どもたちの豊かな成長と主体性、社会性を育む子育て支援の充実）
（子育てに関する学びの創出）
（生きる力を育み子どもの夢をかなえる教育の推進）
（地域社会で支える教育と子育て支援の充実）
（豊かな学びを支える教育基盤整備の推進）

基本目標④ 誰もが安全で安心して暮らせるまちをつくり、次世代に継承する

人口減少や少子高齢化、局地化・複雑化する危機事象への対応など、社会課題に柔軟に対応しながら次世代に活力ある舞鶴を継承するため、効率的で利便性の高い安全安心な都市基盤の形成に努めるとともに、生涯を通じて健康で生きがいを感じながら暮らせるまちづくりに努めます。



【数値目標】

- 居住誘導区域に居住する人口割合 8.99% (H30) → 9.52% (R8)
- 防災アプリのダウンロード数 R6.3配信開始 → 11,000回 (R8)

横断的目標① 多様な人材の活躍を推進する

多様化、複雑化する地域課題の解決に向けて、市民団体や企業、金融機関、教育機関などの多様な主体との連携を充実・強化するとともに、市民一人ひとりが活躍できる環境はもとより、誰もが身近な地域で支え合いながら暮らせる環境づくりに努めます。

また、国籍や民族、習慣の違いを問わず、お互いの文化を認め合い、誰もが安心して生活できる多文化共生社会の実現を目指します。



【数値目標】

- 女性 (25～44歳) の就業率 68.7% (H27国調) → 72.5% (R7国調)
- 高齢者 (65歳以上) の就業率 23.7% (H27国調) → 25.0% (R7国調)
- 障害者の実雇用率 2.61% (H30) → 3.34% (R8)

(1) コンパクトシティの推進

- 将来にわたり暮らしやすさを維持する計画的な土地利用
(市街化調整区域における地区計画策定地区数 3地区 → 6地区)
(居住誘導区域に居住する人口割合 8.99% → 9.52%)
- 住み続けたいまちを支える生活基盤づくり
- 持続可能なライフラインの構築

(2) 防災・減災対策の強化

- 防災・減災機能の充実・強化
- 多様な災害危機事象に対応する防災体制づくり
(防災アプリのダウンロード数 → 11,000回)
(避難タイムラインや地区防災計画の作成件数 1件 → 30件)
- 災害に強い消防体制づくり
- 地域防災力の強化・向上

(3) 地域医療の確保

- 将来にわたり安心して医療が受けられる体制づくり
(公的病院の医師確保)
- 慢性期医療の確保

(4) みんなでつくる健康なまち

- 全ての市民が健康に暮らすためのまちづくりの推進
(まいづる健やか応援団として認定する企業数等 0件 → 60件)
- 生活習慣病の予防、介護予防等による健康寿命の延伸に向けた取組の推進

(5) 安心して暮らせる支え合いのまち

- 新たな時代に対応した福祉サービスの提供
(介護人材育成の強化)

(6) 生涯を通じて健幸 (健康・幸福) で文化的なまち

- 歴史文化遺産の活用によるまちづくり
(引揚記念館来館者数 5.4万人 (R5) → 7万人)
- 文化を楽しみ創造するまちづくり
(舞鶴独自のアート事業参加人数 11,916人 → 14,500人)
- スポーツを生かした元気なまちづくり
(近畿規模以上のスポーツ大会・合宿等の誘致、独自のジュニア教室の開催等)
- いつまでも学び活動が続けられることができるまちづくり

(7) 豊かな自然環境を守り育むまち

- 脱炭素化の推進
(地球温暖化緩和策の取組)
- 循環型社会の確立
(ごみ減量の取組)
- 生物多様性保全の推進
(環境保全活動への参加者数 0名 → 55名)

(8) 持続可能なまちづくり

- 持続可能な行財政運営の推進
- 持てる資産の効果的な活用
(公共施設マネジメントの推進等)
- 多様な連携によるまちづくり
(京都府北部5市2町の連携事業数 6件 → 17件)

(1) 共に助け合い地域が元気なまち

- 地域のつながりと新しい地域コミュニティの創造
(行政と住民がともに課題解決に取り組んでいる地域数 1地区 → 10地区)
- 男女共同参画の推進
(事業所支援セミナー参加企業数 23社 → 40社)

(2) 一人ひとりの人権が尊重されるまち

- 人権意識の向上
(イベント等を通じた人権啓発・学習の推進)

(3) 国籍や民族、文化の違いを互いに認め合い、多文化が共生するまち

- 異文化理解の促進
(国際交流員による出前講座、交流イベント等)
- 定住外国人への生活支援
- コミュニケーションへの支援
(日本語支援者の登録数 22人 → 35人)

(4) 高齢者や障害のある人が安心して暮らせる環境づくり

- 安心して生活することができる環境づくり

(5) 国防・海の安全を担うまち

- 海上自衛隊、海上保安庁等との連携
(自衛官の入隊者数 20人 → 30人)
(退職自衛官の市内再雇用者数 10人 → 15人)

横断的目標② 新しい時代の流れを力にする

A I 等の先進技術を積極的に活用する中で、地域における D X を推進し、SDG s 未来都市として、持続可能で誰一人取り残さない社会づくりを推進します。



【数値目標】

- 多様な連携による、SDG s の達成に向けた取組数 5件 (R1) → 25件 (R8)

(1) 次世代に向けた社会基盤整備

- 先進技術で活力を生み出すまち
(舞鶴版MaaS「meemo」
住民ドライバー登録者数 0名 → 20名)
(A I (人工知能)やR P A (自動化技術)利用促進)
(マイナンバーカード取得率 10.2% → 94%)

- 環境価値を創造するまち
(間伐材搬出材積 1,338m³ (R5) → 1,800m³)

※数値項目について、特に記載のないものについては「基準値(H30)」→「目標値(R8)」としております。